

留萌市立緑丘小学校

指定年度：H31～
児童数：161名

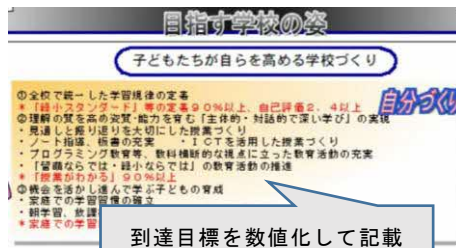
1 包括的な学校改善に向けた取組の概要

① 教育理念や経営方針の浸透

イ 教職員や保護者、地域住民との目的・目標・方策の共有化

保護者や地域住民に目指す学校の姿を具体的に示し、校長の示す学校経営方針の共通理解を図った学校改善を推進

○ 今年度の学校経営方針を盛り込んだグランドデザインを作成し、保護者、地域住民に配布し、目指す学校の姿を共有した。グランドデザインは、全体懇談会や学校運営協議会等で説明するとともに、学校だよりやホームページにも掲載し、地域住民との共有も図った。



○ 具体的な到達目標を保護者等と共有し評価を得ることで、取組の改善、充実を一層図ることができるよう工夫している。

○ グランドデザインに、目指す学校の姿を「学校スローガン」として簡潔に表現し、校長の目指す学校の姿を児童に示した。スローガンについては、全校朝会で校長が説明したり、玄関前に掲示したりするなど、子どもがいつでもスローガンに触れられるよう工夫している。

② 協働意識の高揚

ア 校務分掌を工夫した組織体制の確立

校務分掌間の連携強化等による教職員がチームとなった学校改善の推進

○ 分掌が連携し学校の課題解決を目指す「チーフ会議」を開催した。学校の課題解決に当たっては、事前に校長が解決の方向性を全教職員に提示し、分掌間が連携を図りながら具体的な取組を進めた。



○ 若手教員を校務分掌のチーフとして積極的に配置し、ミドルリーダーのサポート体制を構築したことで、協働意識の高まりが見られるようになった。

③ コミュニケーション

イ 日常対話や面談の工夫

面談の活用による教職員の経営参画意識の向上

○ 職員との面談（人事評価制度に基づく面談）を活用して、学校経営方針に基づく教職員個々へのミッションを校長から具体的な目標、期限を示して指示した。校長から直接伝えることで、校長の意図を共有しながら取組を進めることにつながった。

2 取組の成果と課題（□：成果 ■：課題）

□ 校長が示す方針を受けて「チーフ会議」が随時開催されてきたことで、教職員の主体性が高まり、先回りをした対応が図られるようになり、特に、授業改善や学習習慣の定着等で成果を上げることができた。

□ 個々のミドルリーダーが、校長の示す学校経営方針に基づいて実践を積み重ねるとともに、数値目標に到達しなかった取組の改善策を検討するなど、カリキュラム・マネジメントを意識した取組が定着してきた。

■ 時期によって業務の集中が見られた。働き方改革の観点からも、業務内容を精選し、校長のリーダーシップの下、全教職員がチームとなった学校改善を一層進めていく必要がある。

児童及び保護者アンケートより抜粋	肯定的評価	目標値
「緑小スタンダード」等の定着（保護者）	94.0%	90%以上
授業がわかる（児童）	96.8%	90%以上
家庭での学習に取り組む（児童）	74.5%	80%以上
元気に登校し、楽しく学校生活を送っている。（保護者）	97.0%	90%以上